



リモートアセスメントとコロナウイルス

トイリーチ、シニアバイスプレジデント、エンゲージメントオフィサー PCI SSC は最近のコロナウイルス勃発に照らし、リモートアセスメント実行のためのガイダンスを協議しています。

PCI SSC はコロナウイルスの感染拡大とそれを封じ込めるための国際的な努力を含む国際的な状況を踏まえ、リモートアセスメントの課題について多数の質問を受けています。このブログで PCI SSC はリモートアセスメントにおけるアセッサーコミュニティにガイダンスを提供しています。PCI SSC は会議や会合のために大規模なグループの集会に限定されずコロナウイルスに関係した特殊な状況と、また世界各地で PCI アセスメントのような活動への影響を認識しています（例えば、PCI DSS, Card Production, P2PE, and PIN assessments）。オンサイトによるアセスメントは常に期待され望まれています。特殊な状況において従業員の安全と健康はオンサイトアセスメントを実行するための判断の非常に大きな要素になります。

アセッサーはオンサイトである必要があるか？

PCI SSC はアセッサーが短期でオンサイトへの旅行を禁止される状況は例外的であると認識しています。例えばコロナウイルス感染拡大により影響を受けた国内での旅行制限や勧告による場合など。オンサイトアセスメントが不可能な場合アセッサーはブログにある以下のガイダンスに沿うべきです。

リモートアセスメントを実行する場合、アセッサーはリモートで実行されるバリデーションがコントロールが適正に実行され要件に適合していることにつき、要件に「適合」を記入する前、または ROC を完成させる前に必要なレベルの確証を提供していることを確実にしなければなりません。

アセスメントの完全性の維持

アセッサーはリモートテストによってネガティブに影響を受けないアセスメントについて完全性を確保するために必要なステップを踏襲します。例えば、インタビューされる人、検査されるシステムコンポーネントなどはオンサイトでの場合と同等であるべきです。また実行の観察、エビデンスの収集のための手法はオンサイトアセスメントと同レベルで行われなければなりません。

アセッサーは ROC の中でもしくは他のレポート内でなぜオンサイトアセスメントがなされなかったのか、リモートテストがどのように同一レベルの確証を提示しているかをクリアに文書化しなければなりません。すべての関連するエビデンスは監査の要請の場合に他の作業資料とともに保持されなければなりません。

さらに、アセスメント会社は認定された地域のアセッサーリソースの支援を受けることも検討可能です。例えば、PCI DSS アセスメントではもし主要 QSA が健康不安のためにオンサイト地域への旅行が不可能な場合、QSA プログラム要件に則して現地のサブコントラクトを活用できません。

アセスメント終了の遅れによりコンプライアンス上の影響が懸念される場合、契約アクワイアラを通じ関係するペイメントブランドにお問合せください。

オンサイトとリモートアセスメントに関わる QSA への一般的なガイダンスは FAQ の中で提供されています。詳細情報とコロナウィルスによる PCI イベント、要件、その他の PCI SSC の活動への影響については PCI SSC のウェブページをご確認ください。このような状況下において革新的な業務遂行される皆様のご理解に御礼申し上げます。

2020 年 3 月